公立大学法人 福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター

2025.12

患サポ通信
ーささえちゃん便りー

第 140 号

特色ある診療科特集

リンパ浮腫ケア外来　～　再編！

＊はじめに

当院では、これまでリンパ浮腫ケア外来をセラピストの資格を持つ看護師を中心に行ってきましたが、形成外科の専任医師と連携することで、2025年4月よりリンパ浮腫ケア外来において「リンパ浮腫複合的治療」の算定が可能となりました。これに先立ち2024年より我々はリンパ浮腫に対してチーム医療としての治療をより強化するために、ミーティングを重ね、リンパ浮腫ケア外来のマニュアルの大幅な改訂や、治療の適応や内容に対する統一した基準を整えてきました。そのため、軽症から重症な患者さんまで、広く積極的な支援および治療を行える様になりました。その活動内容の一部をご紹介いたします。

＊リンパ浮腫

リンパ浮腫は、リンパ液の流れが障害されることにより、手足などに腫れが生じる状態です。
全体の約 90%が、がん治療に伴うリンパ節郭清などの続発性のものとされ、当院の様な、がん診療連携拠点病院ではリンパ浮腫の患者さんが少なくない状況です。この疾患は根治的な治療が難しく、進行に伴い患肢の腫大、皮膚の硬化、リンパ管や脂肪組織の線維化、象皮症などを引き起こし、治療への反応が低下します。そのため、発症後は早期からの対応が重要です。

＊治療方法　⇒　リンパ浮腫の治療には、複合的理学療法と外科的治療があります。

○複合的理学療法

セラピストの資格を持つ看護師3名が、形成外科の専任医師と連携して月曜日に月3回行っています。この外来では、専任医師の指示の下、浮腫の程度、原疾患の状態および生活機能など、患者背景も考慮した弾性着衣の圧迫圧や種類の選択（ストッキング・スリーブ、包帯、バンドなど）を行います。また運動・栄養などの生活指導、スキンケアの指導、および患者自身が自宅で行うリンパドレナージの指導なども行っています。

○外科的療法

外科的治療の代表例としてリンパ管静脈吻合術があります。これは約 1−2cm の皮膚切開から集合リンパ管と皮下静脈の吻合を行い、リンパ節郭清等で低下または途絶したリンパ流路の再建を行います。この方法では、リンパ浮腫を軽減する他に特に蜂窩織炎を頻繁に繰り返す患者では、このリンパ管静脈吻合術を行うことでその頻度を減らす効果があるとされています。

＊リンパケア外来の対象となる患者さん

深部静脈血栓症や心性・腎性浮腫などの他の浮腫が否定され、リンパ浮腫が疑われる患者さん、またはリンパ節郭清後に発生したリンパ浮腫が発生した患者さん等が、御紹介頂く対象となります。リンパ浮腫が疑われ、治療や指導を希望される場合は、紹介のフローチャートをご参照いただき、まず形成外科にご紹介ください。

＊最後に

外科的治療が適応となるリンパ浮腫の患者さんにおいても、圧迫療法はリンパ浮腫の治療においてその中心を担っております。そのため医療用の弾性着衣がほぼ必須となりますが、医療用ということもあり、自費で購入するにはやや高価となっています。しかし原発性またはリンパ節郭清に伴うリンパ浮腫の場合、医療補助が一部給付されるためお求めやすくなっております。今回再編するにあたり弾性着衣の商品を全て見直し、より患者さんが使用しやすい、継続のしやすいものを提供できる様に致しました。是非、お困りのことがありましたらお気軽にご相談下さい。ご紹介お待ちしています。

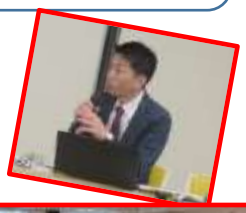
（文責　形成外科　永峰恵介）

ふくしま病院連携ネットワーク　活動報告

R7.11.29(土)に第 12 回ふくしま病院連携ネットワーク講演会が開催されました。キーステーションを県北（大原記念ホール）とし、県内各圏域をオンライン通信にてつないだ講演会・情報交換会となりました。講師に「済生会熊本病院　松岡 佳孝先生」をお迎えし、「2040 年を見据えた医療連携」についてご講演いただきました。

各地会場			
県北：大原記念ホール	16 機関	30 名参加	105 名参加
県中：公立岩瀬病院	17 機関	28 名参加	
県南：白河厚生総合病院	5 機関	7 名参加	
相双：ふたば医療センター	6 機関	11 名参加	
いわき：いわき市医療センター	7 機関	15 名参加	
会津：会津中央病院	9 機関	14 名参加	

会場となっていただいた医療機関の皆様お世話になりました



未来の地域連携のあり方を考えさせられる貴重な講演内容でした。その後は各圏域毎にフリートークタイム等が続きました。

松岡先生　遠路ありがとうございました

県北圏域

県中圏域

いわき圏域

当ネットワークは東日本大震災時に通信網被災により、各医療機関との情報交換・共有が困難だった経験を元に、県内医療機関（主に連携部門）が協力・支援し合える共有体制を確立する目的で活動しています。今後も顔の見える連携を進めるための活動をしてまいります。

文責：鈴木

～　ささえちゃん誕生秘話のご紹介　～

当センターのキャラクター「ささえちゃん」。毎回、何気なく登場していますが誕生秘話をご紹介します。地域連携部改め「患者サポートセンター」が発足したのは 2017 年。部署名も場所も変わることから、覚えてもらいやすいようにキャラクターを作成することとなりました。この年、世間ではパンダフィーバー。上野動物園に 5 年ぶりに赤ちゃんパンダが誕生し、大人気でした。この人気にあやかるべく、パンダをモチーフとして手書きで試行錯誤。たどりついたのが現ささえちゃんです。「患者さんを支える」ことから命名されています。よって、ささえちゃんは現在８歳です！イメージカラー「ピンク」についても何度も検討し、柔らかなイメージとして採用されました。

私たち現スタッフは、先輩方が生み出した「バトン」をこれからも大切に受け継いでまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

文責：鈴木

【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター
〒960-1295　福島市光が丘1番地　TEL:024-547-1818(直通)　Email:tourokui@fmu.ac.jp